

令和4年度

事業報告書

《社会福祉法人ふたば会》

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら法人及び各事業運営を行いました。特別養護老人ホームふたば荘・特別養護老人ホームふたばの森・グループホームふたばの森において複数の利用者・職員の感染者が発生し、利用者・家族・関係者の皆さまには多大なご心配とご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございませんでした。また、ご支援・ご配慮を頂きましたこと、ありがとうございました。

このような中で、各項目において次のとおり取り組みました。

1 サービスの質の向上

①人材確保については、中長期的な人材確保の点から新卒者の募集をはじめ、若年者中心に行った。また、多様な働き方に対応することにより人員確保に努めた。その結果、離職率は前年度より改善が見られた。

②人材育成については、外部研修への参加拡大及び法人内研修として福祉実務能力向上研修を実施し、研修の充実化を図った。また、介護福祉士・認知症介護実践者研修等の資格取得支援を実施した。

2 地域福祉サービスの創造と展開

①コロナ禍の影響もあり、地域との交流・連携を深めることが出来なかった。今後、この状況下でも地域資源としての役割を果たせるよう、感染対策を実施したうえで、サービス内容を検討することが課題となった。

3 持続可能な経営基盤の確立

①新型コロナウイルス感染症によるクラスターにより、ショートステイ受入中止などにより稼働率が減少した。また、物価高による光熱水費の高騰の影響により経営環境が悪化するなか、業務の効率化を図り経費の削減に努めたが、減収減益となった。

②令和4年8月度より、ショートステイふたば荘の定員を4名から6名に変更し、稼働状況の改善を図った。

1.施設の概要

法人の沿革

昭和53年	8月	4日	社会福祉法人ふたば会設立
昭和54年	4月	5日	特別養護老人ホームふたば荘開設(定員50人)
昭和57年	4月	1日	特別養護老人ホームふたば荘定員80人変更開所
平成9年	4月	1日	デイサービスセンターふたば荘及び 在宅介護支援センターふたば荘事業開始
平成11年	10月	25日	居宅介護支援事業指定(3870500174)
平成12年	1月	5日	訪問入浴介護事業指定(3870500232)
平成12年	2月	25日	通所介護事業指定(3870500323)
平成12年	3月	17日	短期入所生活介護事業指定(3870500505)
平成12年	4月	1日	介護老人福祉施設指定(3870500570)
平成19年	9月	30日	訪問入浴介護事業廃止
平成23年	4月	19日	特別養護老人ホームふたばの森設置認可
平成23年	4月	22日	特別養護老人ホームふたばの森指定(3890500238)
		〃	グループホームふたばの森指定(3890500220)
平成23年	4月	28日	ショートステイふたばの森指定(3870502162)
		〃	デイサービスセンターふたばの森指定(3870502154)
平成23年	5月	1日	ふたばの森各事業所事業開始
平成27年	5月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業休止
令和2年	3月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業廃止
令和4年	月	1日	短期入所生活介護事業所ふたば荘定員変更(定員6人)

法人の土地・建物・定員

【所在地】	新居浜市船木字上原甲959番地1～4, 962番地 985番地 974番地1 977番地1 980番地1, 2, 3
【敷地面積】	15,004.27㎡

《特別養護老人ホームふたば荘》

(補助)

(建物構造) 鉄筋コンクリート造一部2階建

日本自転車振興会

(建物面積) 1,999.68㎡

193,220千円

(定員) 80人

新居浜市

15,000千円

《在宅介護支援センターふたば荘》

(建物構造) 鉄骨造平屋建

(建物面積) 71.15㎡

県補助

22,319千円

新居浜市

14,870千円

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲3101番地1、甲3102番地2、
甲3098番地

【敷地面積】 4,552㎡

《特別養護老人ホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 1,903.82㎡

(定員) 29人

(補助)

新居浜市

177,975千円

《ショートステイふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 496.44㎡

(定員) 16人

《デイサービスセンターふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 287.4㎡

(定員) 35人

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲2999番地7、甲3001番地3

【敷地面積】 999.37㎡

《グループホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 665.85㎡

(定員) 18人

(補助)

新居浜市

52,612千円

2. 職員現員

ふたば荘

(令和5年3月31日現在)

職員部門	特養(ショート含)	デイサービス	支援センター	居宅介護	合計
施設長	1				1
相談役	1				1
総務部長	1				1
事務員	1<1>				1<1>
生活相談員	2<1>				2<1>
機能訓練指導員	1				1
ソーシャルワーカー			1<1>		1<1>
介護支援専門員	1<1>			5<1>	6<1>
介護部長	1				1
主任介護職員					
介護職員	38【14】<1>				38【14】<1>
介護助手	3【3】				3【3】
医師(嘱託)	3(3)				3(3)
看護職員	5				5
管理栄養士	1				1
調理員	5【1】				5【1】
清掃員	3【3】				3【3】
合計	65(3)【21】		1<1>	5<1>	70(3)【21】<3>
【業務委託】					
運転手					
宿直員	3				3
合計	3				3

※ () 嘱託 【 】 パート < > 兼務

ふたばの森

(令和5年3月31日現在)

職員部門	特養	デイサービス	ショート	グループホーム	合計
施設長	1				1
事務員					
生活相談員	2<2>	2<1>	1<1>		3<3>
管理者				1	1
機能訓練指導員		2			2
介護支援専門員	1<1>				1<1>
介護職員	16【1】	6【1】	6	14【4】	42【6】
医師（嘱託）	3（3）				3（3）
看護職員	3<1>	3<2>		1【1】<1>	5【1】<2>
栄養士	1				1
調理員	4【1】				4【1】
清掃員	2【2】				2【2】
合計	31(3)<2>【4】	10【1】	7<1>	16【5】<1>	64(3)【10】<4>
【業務委託】					
宿直員	3				3
合計	3				3

※（ ） 嘱託 【 】 パート < > 兼務

3.令和4年度人事

(令和5年3月31日現在)

	職名	氏名	採用日	備考
採用 16人	生活相談員	伊藤基弘	令和4年4月1日	森特養
	介護職員	松浦零	令和4年4月1日	荘特養
	調理員	中山ゆかり	令和4年4月1日	森特養
	ハート介助員	徳永留宥	令和4年4月11日	荘特養
	介護職員	青野楓	令和4年5月1日	GH
	ハート介助員	高岡玲緒奈	令和4年5月23日	森特養
	介護支援専門員	戸田英子	令和4年6月1日	居宅
	調理員	続木洋美	令和4年7月1日	荘特養
	栄養士	小野寛恵	令和4年7月1日	森特養
	ハート介助員	山口加代子	令和4年8月1日	荘特養
	ハート介助員	藤本佐織	令和4年9月1日	荘特養
	ハート介護職員	向井志津香	令和4年10月1日	GH
	ハート介助員	立本良太	令和4年11月14日	荘特養
	調理員	安永美紀	令和4年12月9日	森特養
	機能訓練指導員	小西和明	令和5年1月16日	森デイ
	ハート介護職員	池島早苗	令和5年2月1日	GH

(令和5年3月31日現在)

	職名	氏名	退職日	備考
退職 11人	パート調理員	宮内 忠志	令和4年5月31日	荘特養
	パート看護職員	高橋 みどり	令和4年6月30日	荘特養
	介護職員	挾間 慎治	令和4年6月30日	森特養
	パート介護職員	荒木 美和	令和4年7月31日	GH
	パート介護職員	石川 友紀	令和4年8月31日	荘特養
	栄養士	村上 浩恵	令和4年8月31日	荘特養
	調理員	中山 ゆかり	令和4年10月31日	森特養
	パート介護職員	向井 志津香	令和4年11月17日	GH
	機能訓練指導員	榊 諒介	令和4年11月30日	森特養
	生活相談員	正岡 広行	令和4年12月31日	荘特養
	看護職員	安藤 ひとみ	令和4年12月31日	森特養
	介護職員	尾崎 貴也	令和5年1月15日	荘特養
	介護職員	三木 弘都	令和5年2月28日	デイ
	介護職員	河端 時子	令和5年3月31日	GH

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業所
在宅介護支援センター
居宅介護支援事業所

ふたば荘

特別養護老人ホームふたば荘

1. 総務及び経理

総合目標及び課題

事業所内新型コロナウイルス感染症の発生により、ご利用者への負担と家族の不安を招いてしまった。また、事業運営でも、利用者の受入を制限し稼働率の低下となり、事業収入への影響がみられたが、新型コロナウイルス感染症対応への補助金等の受給により運営を保つことが出来た。

法人の5カ年計画に対する取組は計画通りに進める事ができていない事もあるが、段階的に着手している。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの質の向上	① 当初計画していたインカムを導入することが出来ず、次年度への繰り越し課題となったが、人員配置の見直しに等により、情報伝達とコミュニケーションの向上を図り、サービス提供体制の強化につながった。
(2) 持続可能な経営基盤の確立	① 事業所内新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により、稼働率の低下と感染症対応による多大な経費支出があり、収支に影響がみられたが、新型コロナウイルス感染症への対応補助金等の受給により、運営を維持することが出来た。 また、大規模改修計画を視野に入れ、月次事業報告等により、継続的に稼働率の向上と支出の抑制を図った。
(3) 感染症対応よ予防対策	① 新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時には対応に注力し、重傷者化等を防ぎ収束することができた。更に感染予防対策を意識し、継続的に実施している。
(4) 地域福祉サービスの創造と展開	① 新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活の制限が発生し、生活様式が変化した。可能な限りコロナ禍での地域活動への関りを構築、保持出来るよう、新たな役割を模索した。

2. 相談及び援助

総合目標及び課題

利用者がその人らしい生活を送れるよう、多職種や家族・地域と連携・協働してサービスが提供できるよう努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 特養入所の稼働率の維持・向上のための取り組み	① 稼働率95.6%(76.5人/日)と目標値96.2%(77人/日)には少し届かなかった。
(2) 看取り介護への積極的な取り組み	① 入所時に、将来に備え看取りについて、看取り指針に基づき説明を行い、利用者・家族の意向に沿って、施設内での看取りを行った。 ② 終末期を迎えた利用者の家族には、随時状況説明を行い、また、臨終の際は立ち会うことが出来るように支援を行った。
(3) 短期入所生活介護の稼働率の維持・向上への取り組み	① 1日平均4.8人の稼働実績となった。 ② 家族、CMへは記録を用いて利用状況について情報提供に努めた。また、サービスについては、本人・家族の意向に沿った短期入所サービス計画書を作成してサービスの提供を行った。
(4) 特養申込者・短期入所利用者増加への取り組み	① ショートステイの増床を行い、居宅介護支援事業所の希望に応じて日程調整を行った。入所申込者に関しては施設に慣れていただく意味でも積極的に利用していただき、入所につなげていった。
(5) 苦情・相談受付	① ご意見箱の設置を行っているが、面会制限のため家族からの意見はなかった。 ② 相談・苦情があった際は、速やかに事実確認を行い、経緯の説明を行えた。また、速やかに対応方法を検討し改善に努めた。館内及び広報誌に掲載し職員・関係者に周知を図った。 ③ 第三者委員を交えた苦情相談懇談会を、6月に書面開催にて実施した。
(6) 事故発生時の対応	① 事故発生時は、状況確認を行い速やかに家族に報告を行った。また、状況に応じ、受診等の適切な対応を努めた。
(7) 社会資源を活用したボランティアの受け入れ	① コロナウイルスの影響でボランティアの受け入れについては、一時的に中断となった。
(8) 利用者・家族・施設間の円滑な支援と調整	① 家族会については、例年6月・12月の2回開催してきたが、コロナウイルスの感染防止の観点から本年も開催は見送り、書面にて状況の報告を行った。

3. 介 護

総合目標及び課題

コロナ禍に対応した集合研修やオンライン研修があり、主にオンライン研修を活用して研修に参加した。参加出来なかった研修もあったので、次年度は、少人数からでも参加出来る様に取り組むことが課題となった。

目標及び課題	成果等
(1) 統一した教育 (ストップ自己流)	① 研修参加については、勤務調整にて勤務の負担軽減を図り、出来るだけ多くの職員が自己研鑽に努められよう研修の場を確保した。 ② 介護指導者養成研修等の資格取得の受講が、コロナ禍で参加することが出来なかった。次年度は、一人からでも参加して有資格者を養成していく。
(2) 介護業務の効率化	① 業務分担表を改訂した。今後は、適時見直しをして実情に沿った内容として活用していく。 ② インカムの導入には至らなかった。 朝礼を見直し、朝礼時の職員の待機時間にグループの夜勤職員が申し送りをすることで、朝礼の申し送りを簡素化して待機時間を短くすることが出来た。
(3) 報連相の充実	① 電子掲示板を活用し、タイムリーに情報共有することが出来た。また、各自が見直しを出来るため有効活用されている。 ② 各グループでは、グループでノートを作ったり、グループの電子掲示板を活用したり工夫して情報共有に努めた。 多職種での情報共有は、緊急以外はカンファレンスにおいて認識の共有に努めた。
(4) 接遇の改善	① 接遇委員会や虐待防止委員会が中心となって、月々の目標を具体的に掲げてよりよい接遇に努めた。
(5) 安全に安心出来る生活環境作り	① 施設内の整理・整頓・清潔を保つように努めた。 介護助手やパート職員が中心となって居室の片づけや整理整頓を継続していく。

4. 厨 房

総合目標及び課題

健康で安らぎのある、その人らしい暮らしが送れるよう、適切で安全な食事の提供を実施した。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの向上	<p>① ご家族からの持込食品などについては、ご利用者の体調や状態等を配慮した上で、適切な管理を行い誤嚥防止に取り組んだ。</p> <p>② 嗜好調査や聞き取りにより利用者ニーズを把握し、行事に反映出来るように取り組んだ。新型コロナウイルスクラスターの影響もあり、6・7月は行事食を提供できなかった。</p>
(2) 地域貢献	<p>① 新型コロナウイルス感染症が蔓延し、地域の方々との交流会等が感染拡大防止の観点より中止となり、地域貢献が出来なかった。</p>
(3) 発注の見直し	<p>① 相談員と連携し、適時利用者数の把握をしながら発注数を最適化して食品ロスの削減に努めた。</p> <p>② 品質・価格を考慮し、食材納入業者の見直しを行った。</p>

5. 機能訓練

総合目標及び課題

利用者の心身の諸機能の維持回復を図るため、個別訓練計画書を作成し、各専門職との協働により実践に努めた。

科学的介護実践に基づき利用者の自立支援のため身体機能、認知機能評価を定期的に実施し、その実践に努めた。

今年度は、介護予防教室として角野地区に出向き、高齢者の運動について関わりをもった。

目標及び課題	成果等
(1) 利用者の心身の諸機能の維持、改善を目的とした生活リハビリの充実	<p>① 利用者全員の心身の定期的な評価を実施し、その評価をもとに機能訓練を実施した。またケアプラン策定時に心身の状況から具体的協働内容の提示を行った。コロナウイルス感染によるクラスターが発生したため、集団レクは実施できなかった。今後は感染予防を徹底しながら集団レク、個別機能訓練を実施していくことが課題となった。</p>
(2) 利用者への安全な介助方法、介護者の負担を軽減させる介助方法の指導	<p>① 利用者の身体機能に応じた介助方法の指導、福祉用具の選択をカンファレンス等を通して実施した。介助中における事故は減少しているが、全職員が統</p>

<p>(3) 褥瘡予防、改善へのアプローチ</p>	<p>一した介助方法を徹底できていないことが課題となった。</p> <p>① 褥瘡ハイリスクの利用者に対して褥瘡予防、改善のためポジショニングシートと体位変換表を作成して実施した。褥瘡治癒は早期に実施できている。新規褥瘡発生者は以前よりは減少しているが、足部に褥瘡が発生しやすい傾向である為、足部に対してのポジショニングの指導が今後の課題となった。</p>
---------------------------	--

6. 健康管理

総合目標及び課題

・入所者の疾病を理解し、日頃のコミュニケーションから本人のニーズを把握し、多職種と連携・協力のもと、安心して生活が送れるよう援助した。また、健康状態の維持や早期発見・治療を行い悪化予防に努めた。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 日常生活の健康管理及び質の向上</p>	<p>① 利用者の健康状態などの記録をICTを活用して情報共有・分析を行い健康増悪の早期発見や多職種との連携を密にし、穏やかな日常生活が送れるよう援助した。</p> <p>② 状態変化が認められた場合には、利用者・家族に十分な説明・報告をし、施設での治療もしくは受診希望等を確認・提案することで早期対応に努めた。</p>
<p>(2) 安全な日常生活が送れる</p>	<p>① 多職種と協力し感染対策・褥瘡予防に努めたが、コロナのクラスター発生や褥瘡の発生がみられ、予防には至らず、今後の課題となった。</p>

7. 職員研修参加状況(ふたば荘)

月	日	内容	場所	出席者
5	25~26	愛媛県老施協第1回総会・施設長研修会	松山市	相談役・施設長
8	4	第17回愛媛県老人福祉施設大会	オンライン	総務部長・介護職員1名・介護支援専門員1名
9	2	テーマ別研修会「認知症の対応」	オンライン	介護職員1名
	27~28	第69回四国老人福祉施設関係者研究大会	オンライン	施設長・管理栄養士・介護職員1名 介護支援専門員1名・生活相談員1名
10	11	季節性感染症の感染防止対策研修	松山市	看護職員1名
	20	現場でできる摂食嚥下ケアと口腔ケア	松山市	介護支援専門員1名
	27~28	認知症介護実践者研修	松山市	介護職員1名
	28	ハラスメント対策セミナー	市内	事務員1名
	31	サイバーリスク対策フォーラム	オンライン	施設長・総務部長
	31	第70回愛媛県社会福祉施設大会	松山市	看護職員1名
11	5	介護の入門的研修	西条市	介護職員1名
	8~9	認知症介護実践者研修	松山市	介護職員1名
	12	介護の入門的研修	西条市	介護職員2名
	19	介護の入門的研修	西条市	介護職員1名
	26	介護の入門的研修	西条市	介護職員1名
12	1	四国老施協セミナー	松山市	施設長
	3	介護の入門的研修	西条市	介護職員1名
	9	令和4年度カンントリーミーティング(東北・四国ブロック)	オンライン	施設長
	10	介護の入門的研修	西条市	介護職員1名
	13	テーマ別研修会「職場のメンタルヘルス」	オンライン	看護職員1名
	20	社会福祉法人の連携によるコストダウンの実現	松山市	総務部長
1	24	サービス向上研修会「福祉の職場管理職研修」	松山市	看護職員1名
2	13	県・東予老施協共催研修会「防災に関する研究・研修会」	市内	事務員1名
	24	介護ロボット導入セミナー&実践報告会	オンライン	介護支援専門員1名
	28	愛媛県老施協第2回総会・施設長研修会	松山市	施設長
3	6	テーマ別研修会「倫理及び法令遵守、身体拘束、虐待防止」	オンライン	介護職員2名
	20	愛媛県ノーリフティングケア普及啓発セミナー	オンライン	介護職員1名
	23	メディカルサポートセミナー	オンライン	介護職員2名

8. 事業実施状況

月	保健衛生	施設管理	施設整備等	職員厚生	その他
4	/22 調理員検便(7名) /27 入居者健康診断(76名)	/20 奉仕デー 倉庫整理 /22		/20 職員健康診断・順風会(43名)	/4 新人研修 /15 法人研修
5	/2 職員検便(57名) /4 寝具納品 /12 寝具引取 /26 調理員検便(7名) /24 調理員検便(7名)	/25 奉仕デー /15 奉仕デー 消防設備点検	/18~20 金庫移設 キヤビネット整理 事務所・寮母室統合工事		/10 はあとねっと発行 /18 内部学習会 /20 法人研修 /25 避難訓練
6					/9~ 施設内でコロナウイルスによるクラスター発生
7	/26 調理員検便(7名)	/13 奉仕デー 受水槽立ち入り検査	/13~ /29 ショート居室の床増床工事 ナーースコールド修理設定		/10 はあとねっと発行 /14 施設内のコロナウイルスによるクラスター収束 /28 内部学習会
8	/23 調理員検便(6名)	/17 奉仕デー	/2 /3 四国通建 消防設備点検 貯水槽検査		
9	/6~16 コロナワクチン4回目接種 /10 寝具納品 /15 寝具引取 /24 調理員検便(6名)	/14 奉仕デー		/6~16 コロナワクチン4回目接種	/10 はあとねっと発行 /16 法人研修 /21 内部学習会
10	/30 入居者健康診断(74名) /22 調理員検便(6名)	/12 奉仕デー		/14 職員健康診断(夜勤者:24名)	/21 法人研修 /26 内部学習会
11	/1 /25 インフルエンザ予防接種(入居者) 調理員検便(6名)	/9 奉仕デー 受水槽清掃 /12 電気設備年次点検 /26	/23 高圧ケーブルの取り替工事 /26 電気ケーブリング工事 /28 6・8号室 空調機修理	/1 インフルエンザ予防接種(職員)	/7 法人研修 /10 はあとねっと発行 /19 合同避難訓練 /16 愛媛県知事選挙準備日前投票 /30 内部学習会
12	/14~22 コロナワクチン5回目接種 /21 順風会利用者へのゲン撮影(77名) /23 調理員検便(6名)	/14 奉仕デー	/1~ /6 施設内共用スペース保守点検 /12 消防設備点検 /26 ダイ身障トイレ修繕 廊下・21号室 空調機修理	/14~22 コロナワクチン5回目接種	/16 法人研修
1	/23 調理員検便(6名)	/18 奉仕デー			/10 はあとねっと発行 /20 法人研修 /26 内部学習会
2	/24 調理員検便(7名)	/15 奉仕デー	/20 ガラス取り替え工事		/17 法人研修 /22 内部学習会
3	/25 調理員検便(7名)	/15 奉仕デー 浄化槽法定点検	/2 デイスーパービス南側・軒下補修		/10 はあとねっと発行 /17 法人研修 /22 内部学習会

9. 特養利用者の概要

(1) 利用者の状況

令和5年3月31日現在

保険者別入所状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	15	61	76
四国中央市	1	2	3
合計	16	63	79

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0%
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0%
10年以上～15年未満	0	3	3	3.8%
7年以上～10年未満	0	4	4	5.1%
5年以上～7年未満	1	3	4	5.1%
3年以上～5年未満	2	9	11	13.9%
1年以上～3年未満	8	31	39	49.3%
1年未満	5	13	18	22.8%
合 計	16	63	79	100.0%

利用期間が3年未満の方で全体の72%を占め、全利用者の平均利用期間は3.02年となっている。

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	3	0	2	4	3	2	2	16	82.3
女	1	0	4	5	12	15	20	6	63	86.6
合計	1	3	4	7	16	18	22	8	79	85.7

①90歳以上の利用者は全体の38%を占めており、平均年齢は85.7歳となっている。

②最高齢者は、男性は97歳、女性は99歳で、最も若い利用者は、男性65歳、女性64歳である。

要介護度の状況

〔要介護度〕

	自立	支援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	0	0	0	0	4	8	4	16	4.00
女性	0	0	0	0	14	29	20	63	4.09
合計	0	0	0	0	18	37	24	79	4.08
前年度実績	0	0	0	1	22	30	27	80	4.04

利用者の要介護度は、要介護4・5に認定された方が全体の77%を占めており、平均要介護度4.08となっており、前年度実績4.04からは少し上がっている。

(2)入退所状況

利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6
女	1	1	0	0	2	2	1	1	3	1	0	5	17
計	1	1	0	0	2	2	1	1	3	4	3	5	23

〔入所前住居〕

区分	在宅	病院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	1	2	0	0	0	0	0	3	6
女	5	4	1	1	0	2	1	3	17
計	6	6	1	1	0	2	1	6	23

全利用者のうち74%の利用者の方が施設・病院等からの入所である。

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	2	6
女	2	0	1	1	0	1	1	1	4	3	3	0	17
計	2	0	1	1	2	1	1	1	5	4	3	2	23

23名の方が退所となり、死亡退所が18名となっている。

6名は長期入院により退所になっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者79名]

ランクJ 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	0
ランクA 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	1
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	7
ランクB 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	3
	2 介助により車椅子に移乗する。	28
ランクC 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	9
	2 自力では寝返りもうたない。	31

寝たきりに当てはまるランクB・Cの利用者の方で全体の89%以上を占め、重度化が認められる。

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者79名]

項目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	2
ランクI	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	3
ランクII	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	6
	b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	11
ランクIII	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記IIIの状態が見られる。	24
	b 夜間を中心として、上記IIIの状態が見られる。	13
ランクIV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	14
ランクM	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	6

79名の内、ランクIII以上に位置づけされる利用者の方は72%となっている。

(4)ケアプラン実施状況

[ケアプラン：立案状況]

項目	自立支援	日常生活援助	離床	医療面	運動	褥瘡 ペリス	排世	声かけコミュニケーション	整容	転倒予防
人数	5	17	8	10	2	2	12	14	4	5

①個々の内、最も重要と思われるもの各1を挙げている。

②個々のケアプランについては、包括的自立支援プログラム方式により6ヶ月毎及び状態に応じケアカンファレンスにて見直し、サービス計画に基づいて毎日実践しその状況を記録している。

(5)利用者医療状況

疾 病 状 況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	アルツハイマー型認知症	27	14	高血圧	1
2	脳梗塞後遺症	7	15	偽通風関節炎	1
3	レビー小体型認知症	7	16	頸椎症性脊髄症	1
4	統合失調症	5	17	肺癌	1
5	脳出血後遺症	5	18		
6	認知症	5	19		
7	混合型認知症	4	20		
8	糖尿病	4	21		
9	慢性心不全	4	22		
10	小児麻痺	3	23		
11	心房細動(房室ブロック)	2	24		
12	強皮症(難病)	1	25		
13	進行性核上性麻痺(難病)	1	合 計		79

施設利用者年齢が高齢化していることに加え、認知症・脳血管障害が半数以上を占め、自立度が低く介護度が上がっている。複数の慢性疾患及び難病を持っている利用者の入所が増え、受診・入院と複雑化している。

受 診 状 況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	8	8	9	10	13	14	9	13	10	13	15	16	138	11.5	0.38
延人数	9	8	9	10	15	15	10	13	12	14	15	16	146	12.2	0.40

利用者・ご家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。

入所前より通院されていた病院への定期受診の方が増えている。

急変による心疾患・骨折等は、当施設で対応困難である為、医療機関での治療依頼となるため、受診・入院の流れとなることが毎年同様にあった。

入 院 状 況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	1	5	4	5	7	5	3	4	3	5	5	5	52	4.3	0.14
延日数	24	62	106	77	65	79	40	40	34	126	131	105	889	74.1	2.4

慢性疾患・既往があり入院を繰り返したり、入院中に症状悪化し長期化したり、入院中死亡退院・退所となられる方も複数おいでた。

精神科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
実人数	14	15	15	14	15	15	16	17	21	20	18	18	198	16.5
延人数	24	24	26	26	26	27	28	30	39	40	37	36	363	30.3

入所後、認知症で周辺症状が出現し、医師に相談・診察を受け内服等の治療を受けることや、入所前より精神科に通院しており継続となられる方も増加した。

歯科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	3	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16	1.3
実人数	12	7	3	7	7	2	5	8	7	9	5	1	73	6.1
延人数	15	9	3	7	7	2	5	8	7	9	5	1	78	6.5

義歯の不具合、歯の劣化による齲歯・歯折による受診が多い。歯のケア重要である。

(6) 身体拘束実施状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
延べ日数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努めた。現在はミトンを使用している利用者は一人。本人は経口摂取を望まれているがなかなか進めていくことが難しい為お楽しみ程度のおやつを口から食べていただいていた。少しでもミトン拘束時間を短くする為に、リビングに離床していただき見守りの中ミトンを外していた。10月入院されてから身体レベル低下見られ、様子観察を行っていたが10月2日委員会開催し、ミトン拘束の必要性がないと判断し拘束解除を行った。

(7) 機能訓練実施状況

個別機能訓練を行うにあたっては、ケアプランと連動しながら個別機能訓練計画に基づき機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員、その他の職種の者が協働して計画的に実施した。また、機能回復訓練のひとつに、理学療法士が担当するリハビリテーションがあるが、これは医療行為であるために医師の情報提供書、又はリハビリ訓練の指示箋が必要なので、骨折などで入院し、退院後も当施設で継続して訓練が必要な時、または、新規入所時においても、在宅のリハビリを継続して希望されるときは、かかりつけ医の情報提供書、又はリハビリ指示箋に基づいて実施した。そして、個別機能訓練実施内容については、中間(3月毎)に直接もしくは郵送にて本人、家族の方に説明を行った。

〔個別訓練実施内容〕

項目/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
運動療法	実人数	32	29	22	33	25	32	32	33	30	27	23	22	340
	延人数	76	75	75	74	74	75	73	73	75	72	69	69	880
歩行訓練	実人数	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	34
	延人数	13	12	12	12	12	12	9	10	10	10	11	11	134
物理療法	実人数	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	26
	延人数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
ADL訓練	実人数	9	6	5	6	6	7	6	6	6	8	6	6	77
	延人数	39	39	39	38	29	29	28	29	22	24	24	23	363

・訓練内容として

プラットホーム、ベッドサイドでの徒手的な運動療法、歩行訓練、物理療法、ADL訓練を実施している。尚、個別重視で、個別訓練の時間、ゆとりある対応で取り組んでいる。また褥瘡予防のため褥瘡リスクが高い利用者へのポジショニングを他職種と連携し情報を共有している。

(8)グループケア実施状況

利用者のグループ編成（すみれグループ：28名 たんぽぽグループ：24名 ひまわりグループ：28名）は例年と変わりなく慣れた職員と穏やかに施設生活を送って頂き、利用者との関わりを持つことで家庭的な雰囲気作りに努めた。一部、コロナの感染対策として見合わせた行事があった。

共通行事実施状況

実施日	行事内容	場 所	グループ別 参加利用者数			
			すみれ	たんぽぽ	ひまわり	計
8/10	夕涼み会	ふたば荘中庭	7	9	13	29
8/16	お盆の法要	デイサービスセンター	8	15	14	37
10/25	運動会	ふたば荘中庭	4	15	14	33
1/1	新年拝賀式	デイサービスセンター	5	13	13	31
合 計			24	52	54	130

クラブ活動 実施状況

(お誕生会)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全体	6	5	5	7	3	6	7	5	7	11	6	11	79
合計	6	5	5	7	3	6	7	5	7	11	6	11	79

(ホーム茶屋)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
すみれ	24	20	24	22	22	20	22	20	24	26	20	22	266
たんぽぽ	36	32	32	30	32	30	30	32	30	28	26	26	364
ひまわり	36	33	34	38	36	38	36	38	36	32	36	36	429
合計	96	85	90	90	90	88	88	90	90	86	82	84	1059

(カラオケ)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
すみれ	1	2	3	0	0	0	0	2	9	8	5	5	35
たんぽぽ	7	10	4	0	0	0	0	2	6	11	15	11	66
ひまわり	12	22	12	0	0	0	0	5	13	17	19	28	128
合計	20	34	19	0	0	0	0	9	28	36	39	44	229

《すみれグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	118	136	30	107	167	170	158	168	190	182	184	219	1,829
座位入浴	20	31	6	19	24	21	13	15	20	21	20	30	240
自立補助入浴	11	23	8	13	14	14	11	12	12	9	16	10	153
自立入浴	20	13	2	5	10	7	8	8	5	6	1	0	85
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	169	203	46	144	215	212	190	203	227	218	221	259	2,307

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出(ドライブ・外食含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	15	0	4	0	0	5	0	0	24
合計	0	0	0	0	15	0	4	0	0	5	0	0	24

《たんぽぽグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	16	28	7	19	27	31	35	34	37	28	31	41	334
座位入浴	15	19	6	15	19	28	24	18	24	25	32	42	267
自立補助入浴	34	17	10	30	38	50	32	47	50	43	42	37	430
自立入浴	55	28	21	36	49	48	44	49	45	37	39	40	491
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	120	92	44	100	133	157	135	148	156	133	144	160	1,522

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドライブ(外食を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	24	0	15	0	0	13	0	0	52
合計	0	0	0	0	24	0	15	0	0	13	0	0	52

《ひまわりグループ》

(入浴実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	91	108	35	63	90	95	100	88	98	73	79	101	1,021
座位入浴	40	33	7	35	49	44	39	39	43	31	37	80	477
自立補助入浴	29	39	11	24	41	43	42	32	39	30	43	33	406
自立入浴	16	17	2	2	8	9	8	9	8	6	6	8	99
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	176	197	55	124	188	191	189	168	188	140	165	222	2,003

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドライブ(お買い物・外食・映画を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	27	0	14	0	0	13	0	0	54
合計	0	0	0	0	27	0	14	0	0	13	0	0	54

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	合 計
4月	79	41	35	3	79
5月	76	23	38	15	76
6月	75	20	45	10	75
7月	76	22	42	12	76
8月	74	26	39	9	74
9月	78	28	34	16	78
10月	78	30	37	11	78
11月	75	26	31	18	75
12月	76	29	34	13	76
1月	75	31	30	14	75
2月	74	37	27	10	74
3月	76	35	30	11	76
合 計	912	348	422	142	

*R5. 3. 31現在、79名のうち
3名入院中。

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施しています。1ヶ月に5%以上の体重減少があった方又は、血液検査で血清アルブミン値3.0ml/dl以下の方は、高リスクと定義され、栄養リスクは、高リスクとなります。高リスクの方の詳細は、血清アルブミン値が基準値に達していない方が殆どでした。今後もご利用者様の意見を傾聴し、個々人に合ったケアマネジメントを実施致します。

食事形態	主食形態					副食形態				流動食
	御飯	お握り	全粥	ゼリー 粥	ミキサー 粥	普通菜	ソフト 食	ゼリー 食	ミキサー 食	流動食
ご利用者数 (人)	28	7	23	14	5	35	24	12	6	3

食事形態において、主食（御飯）が食べられる方は全体の45%で、普通菜を食べられている方も45%です。その他の方は、ソフト食・ゼリー食・ミキサー食等に加工が必要です。ご利用者様の体調や嚥下機能状態は日々刻々と変化し、一人ひとりの体調に合わせた食事の提供が出来る様に努めています。食事摂取量が低下した場合は、食事量を半量に落とし不足分を栄養補助食品を使い栄養を補充しています。これからも、穏やかな施設生活を送れるように、食事やおやつ行事食の提供を致します。

行事食の献立状況

月 日	献 立
4月19日	・鯛めし(鯛雑炊)、和風ハンバーグ、切干大根と大豆の煮物、春キャベツのコールスローサラダ、じゃがいもの味噌汁、梅ゼリー
5月17日	・春の彩カレー、エビフライ、手作りタルタルソース、メロン&レッドキウイ、1日分の鉄&葉酸ヨーグルト
6月	新型コロナクラスターのため中止
7月	新型コロナクラスターのため中止
8月24日	・初夏のちらし寿司、唐揚げとカニクリームコロッケ、茶碗蒸し、茄子のお浸し、さっぱりフルーツポンチ
9月28日	・秋鮭の散らし寿司、いもたき、えびの天ぷら、秋のフルーツ盛り合わせ
10月19日	・散らし寿司、生鮭の味噌マヨネーズ焼き、紅白生酢、かぼちゃのいとこ煮、えのきのすまし汁、りんごのコンポート生クリーム添え
11月16日	・栗ときのこの炊き込みご飯、和風ハンバーグと彩ソテー、りんごとさつまいもの甘煮、ほくほく豚汁、1日分の鉄&葉酸ヨーグルト
12月14日	・海鮮散らし寿司、フライドチキン、湯向きトマトのサラダ、コンソメスープ、いちごケーキ(いちごムース)
1月25日	・鯛めし(鯛雑炊)、鶏もも肉の味噌バターホイル焼き、茶碗蒸し、白菜とカニカマのコールスローサラダ、さつまいもとりんごの甘煮
2月4日	・赤飯、ぶりの照り焼き、鶏のから揚げ、玉子焼き、高野豆腐とかぼちゃの煮物、ほうれん草の和え物、和菓子(梅うぐいす)
3月23日	・散らし寿司、さわらの西京焼き、菜の花の胡麻和え、鶏のから揚げ、さつまいもと人参の金平、いちご

今年も、コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自室での開催や規模縮小等、いつもとなりましたが、ご利用者様のご意見をお伺いし、メニューに反映を致しました。『また、食べたい。』気持ちを大切に、継続を致します。今後共、宜しくお願い致します。

短期入所生活介護の利用状況

	人数	延日数	1日平均
4月	11	129	4.3
5月	12	141	4.5
6月	8	102	3.4
7月	9	129	4.2
8月	16	162	5.2
9月	13	159	5.3
10月	15	148	4.8
11月	20	181	6.0
12月	15	174	5.6
1月	15	148	4.8
2月	13	140	5.0
3月	13	143	4.6
合計	160	1,756	
月平均	13.3	146.3	4.80
前年度実績	135	1,429	
前年度比	119%	123%	

社会福祉法人減免

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	44

社会福祉法人減免として生活困難な利用者に対し、利用料の減免措置を行っている。

減免対象者の範囲

1. 高齢福祉年金受給者
2. 市町が生活困難と認めた場合
3. 対象年収が42万円以下の方

家族会の状況

実施日

*コロナ感染予防のため書面にて実施。

《令和4年度第1回目》

令和4年6月に書面送付

- ①令和3年度事業報告について
- ②令和4年度事業計画について
- ③グループケアへの取り組み状況報告

《令和4年度第2回目》

令和5年1月に中間事業報告送付

ボランティア活動実施状況

月日	ボランティア名	人員	内 容	月日	ボランティア名	人員	内 容
/				/			
合 計						0	

新型コロナウイルスの感染防止として、ボランティアの受け入れを中断。一時的に緩和された際、再開の検討も行ったが、再度感染が拡大傾向にあり、外部の方とは距離を置いた対応を継続している。

10. 指定居宅介護支援

・住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域のニーズに応じたサービスの充足と利用の支援を行った。関係機関との連携を図り、必要とされるサービスを過不足なく提供できるようサポート体制を整えた。

目標及び課題	成果等
(1) 質の高いサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍という特殊な状況で利用者や家族への豊富な情報提供により、自立支援に向けた居宅サービス計画を多角的に提案した。 ② ケアマネージャーの資質向上のため、1名主任ケアマネの資格取得し3名の主任ケアマネとなった。コロナ禍で研修機会が減ったので、リモート研修を取り入れた。 ③ 業務の簡素化と効率化をすることで、迅速で丁寧な対応に努めた。
(2) 利用しやすい事業所の運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 必要な時に安心して相談できる事業所になるよう、職員の人材育成に努めた。 ② 職員のコミュニケーション能力、ケアマネジメント能力の向上を目指した。 ③ 地域が必要としているサービスを見極め、適切な情報の収集と発信を行った。
(3) 持続可能なサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> ① 多職種協働によりネットワークを広げ、サービスを一体的に提供できるよう支援した。 ② 事業所内の情報共有と協力体制、関係機関との連携をより強力に構築していくことが課題となった。

11. 在宅介護支援センター

・新居浜市地域包括支援センターが行う総合相談支援業務及び権利擁護業務等に協力した。

・在宅介護支援センターは次に定める事業を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の支部社協等の定期会議に参加して、相談内容による関係機関の連携体制について、調整を実施した。
(2) 地域課題の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 船木・泉川校区の各支部社協等の定例会議に参加して、地域関係者との意見交換や地域課題について

<p>(3) 基本業務</p>	<p>検討を含め、引き続き意見集約を行った。</p> <p>延相談件数 217 件 (内訳：電話 130 件・訪問 82 件 来所 3 件・その他 2 件) 「認知症サポーター養成講座補助」 講師 4 回、演者 6 回 泉川見守り・SOS ネットワーク協議会： 11 回 一般高齢者介護予防教室開催状況 (上部東教室) 期間：令和 4 年 8 月～10 月/全 13 回開催 場所：角野公民館を使用。 参加者数：22 名 (定員 25 名)</p>
-----------------	---

12. 委員会活動

目標及び課題	成果等
<p>【環境委員会】 利用者・職員が快適に生活出来る空間を提供できるよう、施設内外の環境整備に努めた。</p> <p>【サービス向上委員会】 施設生活や利用者個人に関わる課題について多職種で協議し、サービスの質向上を図った。</p> <p>【感染委員会】 感染予防に努めた。</p>	<p>① 月 1 回奉仕デイを実施し、施設内外の環境美化に努めた。奉仕デイの日を軸に 1 週間を作業週間とし、各部署で決められた場所の清掃を実施した。また、除草作業以外の清掃については、現状通り男性職員を中心に奉仕デイの日に実施した。</p> <p>② 花壇については、各グループがそれぞれの場所を担当し、その個性を活かしながら定期的に除草や植え替え作業を行った。</p> <p>③ コロナが収束時から、それまで行えていなかった場所も少しずつ美観を保てるように務めた。</p> <p>① コロナウイルス感染の影響で大幅に行事が縮小された。全体で取り組む行事の他に、個別での外出の支援の再開等について今後の課題となった。</p> <p>② 委員会の中で各行事や、各部署の検討議題など協議した。また、L I F E の活用やショートステイの増設に伴う職員の役割・節電等支出を減らす目的について検討した。</p> <p>職員の手洗いチェック・体調チェックを行い、職員全体に対しての学習会や感染対策に対しての注意喚起を行ったが、6 月にコロナウイルス感染症クラスター発生したが拡散することなく終息することができた。</p>

	<p>① 感染予防対策ガウンテクニックについて施設内勉強会を行い、繰り返しの学習ができた。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症発生時、利用者・職員の協力し、コロナ抗原検査を実施し、ゾーニングすることにより、早期に対応し、拡散することなく終息した。</p> <p>③ 6月に新型コロナウイルス感染症クラスター発生し、初期対策及び感染対策委員会を立ち上げ、7月には終息することができた。</p>
<p>【給食委員会】 食事を通して、利用者の健康保持と生活の楽しみを提供できる活動に努めた。</p>	<p>① 新型コロナウイルスの感染拡大により、デイホールでのバイキングの実施出来なかったが、利用者から食べたい物を聞き取り、メニューに反映することで利用者の満足を得られるように努めた。</p> <p>② 毎月、体重・体調・嗜好の変化に伴い、個々の食事形態の検討を行った。また、高リスク者に対しては、個々の問題点を抽出して対応に努めた。</p>
<p>【広報委員会】 広報紙を発刊し、施設活動の啓発と理解に努めた。</p>	<p>① 契約者・地域・関係機関等を対象に、利用者の生活の様子を主な内容として年5回の広報紙を発刊し、施設の活動内容の理解促進に努めた。</p>
<p>【研修委員会】 施設内研修を計画し実施した。</p>	<p>① 介護サービス技術の基礎力と応用力の向上を目指して年9回の内部学習会を実施し、延べ334名の参加があった(平均参加人数37.1名、80.0%)。昨年度同様の参加率であった。感染予防対策を講じ、実施時間、オンライン参加など研修形態を工夫し実施した。また録画を行い、不参加者が視聴しレポートを提出しフィードバックを行うことで、職員間の共有も図った。</p>
<p>【事故防止委員会】 介護事故の予防・減災に努めた。</p>	<p>① 介護事故再発防止のため、報告された事例に関しては集計して各グループで事故の傾向を分析し、具体的に対策を委員会の中で検討した。徐々に皮膚トラブルの事故が減少傾向にあるが、発生件数が多いため、皮膚トラブルに対しての対策が今後の課題となった。</p> <p>② 事故原因を分析するため、利用者のADLの介助量等を詳しく記載するようにした結果、事故の原因を特定しやすくなり、対策も具体的に実施できるようになった。転倒リスクが高い利用者、新規利用者に対しては緩和マット、センサーマットを導入する様にしている。しかし、センサーマットを設置していても間に合わない事例があったため、今後は離床コールマットの導入を検討し、予防に努めることが課題となった。</p>

<p>【接遇委員会】 利用者・家族だけでなく職 院にとっても心地よく快適な 空間づくりに努めた。</p>	<p>① あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、表情、態度など 接遇マナーを身に着け、敬意と思いやりを持って対応 できた。</p> <p>② 利用者の尊厳を守り、信頼関係を築き、選ばれる施 設になるよう努めた。</p>
<p>【褥瘡委員会】 褥瘡が発生しないよう重点 的に取り組んだ。</p>	<p>① 褥瘡予防のために、入所時、安静度・自立度の変 更時、褥瘡発生時には褥瘡ケア計画書を立案、見直 しを行った。</p> <p>② 褥瘡リスクに応じて、マット変更、クッションの 使用、ポジショニングを検討し、褥瘡の悪化防止に 努めた。</p>
<p>【排泄委員会】 専門職と連携し、排泄動作 の自立と、安全で気持ちのよ い排泄を目指した。</p>	<p>① 排泄に介護を要する原因等について分析し、専門 職の意見をもとに排泄にかかる要介護状態を軽減で きるか検討した。その結果、改善の見込みが有る場 合は、利用者の同意を得た上で排泄支援計画を立案 し、それに基づき排泄支援を行った。</p>
<p>【看取り委員会】 利用者やご家族の思いに寄 り添い、命に向き合い、最期 までその人らしい暮らしを支 えられるよう努めた。</p>	<p>① 利用者が最期までその人らしく過ごせるように、医 師、家族、多職種での看取り介護カンファレンスを行 い、病状説明すると共に家族には作成した看取りにつ いての冊子を渡し、情報を共有したうえで、利用者本 人の意思ならびに家族の意向を尊重しながら看取り介 護を行うことが出来た。</p> <p>(看取りの実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り対応利用者 8名 ・年1回の看取り委員会による学習会 <p>日時：9月21日 テーマ：看取り介護について</p>
<p>【喀痰吸引委員会】 喀痰吸引を安全に実施でき るように努めた。</p>	<p>① 吸引必要者のピックアップを行い、家族に吸引の同 意をもらい、一覧表を作成して吸引必要者の把握を行 った。</p> <p>② 各自に吸引の研修を実施して、事故防止に取り組ん だ。</p>
<p>【身体拘束防止委員会】 身体拘束の弊害を理解し、 利用者の尊厳と安全が確保出 来るよう努めた。</p>	<p>① 小さいことでも話し合っ、どのようにすれば拘束 をしないでいけるか代替策を考え拘束防止に取り組み 、拘束予防が出来た。</p>

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業所
デイサービスセンター
グループホーム

ふたばの森

特別養護老人ホームふたばの森

1. 相談及び援助

総合目標及び課題

地域に生じている課題に向きあい、法人の理念である「愛ある安心、感じる満足」を実感できる福祉サービスの拠点づくりを行った。また、全部署、関連委員会において感染症・災害に備える計画の策定及び見直し等について取り組んだ。

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持と入所事前準備の更なる強化	① 特養は年間平均稼働率は92.1%となった。入院や退所に伴う空床が839日と昨年度と比較して増加した。特に1月以降は退所者の増加、入所希望者の減少により空床期間が多くなった。
(2) 地域福祉サービスの創造と展開	① 常設移動販売の継続をしながら、希望する地域住民に行う買い物支援等、これまでの制度にとらわれないインフォーマルな新しいサービスを移動販売を運営している就労継続支援事業所と連携を密にして行った。
(3) 介護ロボット、ICT等の活用	① 今年度、スカイリフトを導入し、介護ロボット導入支援事業補助金の申請を行った。

2. 介護

総合目標及び課題

サービスの質を担保するために、人材確保と、自律した職員の育成が課題となっており中長期的な人材確保、育成策を具体的に協議し実施しました。また、働きやすい環境づくりや、現員での勤務体制強化に取り組みました。

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの更なる強化	日中の個々の生活リズムや要望（いつ起きるか、何を飲みたいか等）を大切にし、選択して頂き出来る限りそれに応えるられるよう対応を行った。

<p>(2) 認知症ケアの教育、人材育成、勤務体制強化</p>	<p>① コロナ禍であったため、感染対策を徹底した外部研修等の参加やリモートを使用した研修に参加した。</p> <p>② 夜勤帯では、他ユニットと協力し合い利用者が安全に過ごせる体制を整えることが出来たが、柔軟な勤務体制の構築には至らなかった。</p>
<p>(3) ユニットケアの環境づくりの見直し</p>	<p>① リビングに季節の花を飾ったり、メダカを飼うなどし、利用者が落ち着いて生活が出来る環境づくりを行った。掲示物は車椅子の目線に合わせて貼る位置の見直しをした。</p> <p>② 行事は感染対策の為 外部に出ることは出来なかったが 各ユニット別に起案し施設の駐車場で外気に当たったりおやつ作りなどをし気分転換を図った。</p> <p>③ 職員が利用者の横に座り、一緒に談笑することで自然な笑顔を引き出すことが出来た。</p>
<p>(4) 自然災害や感染症の対応</p>	<p>① 排泄ケア用品の備蓄を継続し行った。</p> <p>② 面会については、新型コロナの感染症の状況に応じて法人独自の段階別指標に基づき、面会支援を行った。また、看取り対応時は、別途入室経路を確保してご家族と過ごせる時間を取ることが出来た。</p>
<p>(5) ICTの導入</p>	<p>① ケア記録システムが導入され、記録などの効率化が図れた。また、リアルタイムで情報共有を行えるようになった。又、事務所にタブレットが設置され出勤時にゆっくりと閲覧出来る様になった。</p>

3. 栄養

総合目標及び課題

満足される食事提供と個人毎の栄養管理の充実に取り組みました。また、食に関する事故防止に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 栄養ケアマネジメントの実践	① 利用者毎の栄養ケア計画により、栄養改善に取り組み健康増進を図った。また、多職種で協議し経口

(2) 食事の楽しみ	<p>摂取維持に取り組んだ。</p> <p>① 食事が楽しめるよう、旬の食材を使い、季節を感じられるメニューで行事食を提供した。</p>
(3) 衛生管理、アレルギー対策への強化	<p>① HACCPに準じて、食中毒予防と調理室内・調理器具の衛生管理及び、体調管理と手指衛生の徹底に努めた。</p> <p>② アレルギーの発生を防ぐために、ダブルチェックを行った。</p>

4. 医務

総合目標及び課題

利用者との日頃のコミュニケーションを大切にしながら、安全にかつ穏やかに過ごしていただけるように、関係職種と連携をはかりながら生活支援を行った。また、感染症予防・事故防止等の取り組みを継続しながら、様々な研修に参加し、最新の知識や技術を習得によりケアの向上に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 穏やかな生活への取り組み	<p>① 言葉使いに配慮しながら、利用者、家族、第三者に不快感を与えず安心して頂けるような対応を目指し、利用者への説明や処置時は丁寧に笑顔で安心出来る対応を心がけた。</p> <p>② 利用者の体調不良時や看取り時の説明など、家族が少しでも不安を軽減出来るよう心がけ「よかった」という発言も聞かれたことから、良い対応が出来たと思われた。</p> <p>③ 利用者の異常時は、早期に対応し施設での採血や点滴、また、受診対応に努め苦痛の緩和に努めた。</p>
(2) 感染予防、事故防止に向けた取り組み	<p>① 感染防止や事故防止等内部研修を行い、知識の共有自己研鑽に努めた。</p> <p>② コロナウイルス流行のため、施設での感染対策の勉強会の実施、標準予防策の徹底し感染対策を行った。11月にコロナクラスターが発生し地域交流室</p>

	をレッドゾーンとして対応した。コロナ罹患者は 11 名であった。インフルエンザは発生していない。
--	--

5. 機能訓練指導員

総合目標及び課題

利用者の健康寿命を延ばす事を目標に「既存機能の維持」と「新たな自立動作の構築」に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) ADL向上への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々の病歴、身体状況、ADLを把握して、リハビリ計画を立案・実施した。 ② 個々の利用者に応じて、歩行訓練・立ち上がり訓練・移乗動作などの訓練を行い、ADLの維持・向上に努めた。
(2) 関節拘縮と褥瘡予防への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員と利用者の情報共有を行い、ポジショニング指導や訓練計画の見直しを行った。 ② 内出血の起こりやすい利用者には内出血ノートを作成し、現状把握と再発防止に努めた。 ③ 管理栄養士と連携し、食事量と体重の推移を把握して訓練内容に活用した。

6. 短期入所介護事業所 (含 介護予防短期入所介護)

総合目標及び課題

利用者が在宅において日常生活を継続することが出来るよう、在宅介護では不足するケアを職員が行い、利用者の心身のケアとご家族のレスパイト（休息）として身体的及び精神的負担の軽減が図られるよう努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 在宅生活を継続する為のケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者それぞれの個々に合わせたケアをすることにより在宅生活が維持出来るよう支援した。また、ご家族のサポートやレスパイトとしての役割を果た

<p>(2) 認知症ケアへの対応</p>	<p>すことにより、住み慣れた環境で心穏やかな生活が続けられるよう支援した。</p> <p>① 利用者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、また認知症を正しく理解し適切なケアができるよう、介護職員の専門性や意識を高めた。</p>
<p>(3) 居宅事業所との連携</p>	<p>① 地域や家族との結びつきを重視し、居宅事業所、他の介護保険施設とも連携を取り、稼働率を90%を上回ることを目標としていたが、コロナ禍の影響などにより目標を上回ることはできなかった。</p>
<p>(4) 意識改革と資質の向上</p>	<p>① 職員一人ひとりの専門性を高めるために、研修や資格取得し技能の向上が出来た。</p> <p>② 職員がレベルアップすることにより、より質の良いサービスが提供できるよう努めた。</p>

7. 通所介護事業所 (含 介護予防通所介護)

総合目標及び課題

利用者の意思、人格を尊重し、利用者の立場になって、サービスの提供に努めた。感染対策を今まで以上に強化し、利用者が安全で、安心して利用できるよう努めた。家族や地域の結びつきを大切にして、運営を行った。

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 自立に向けた支援</p>	<p>① 出来る限り、一人ひとりのニーズに応えようとしたが、コロナ禍の影響もあり十分に要望に応えることが出来なかった。</p>
<p>(2) ICTの取入れ</p>	<p>① ケア記録システムを取り入れ記録などの業務の簡素化を図ったが、全職員が操作等を十分に習得することが出来ず、業務簡素化には至らなかった。</p>
<p>(3) ご家族との関係の確立強化</p>	<p>① 様々なご家族の要望に、事業所としてできる範囲で対応できた。</p>

(4) アウトリーチへの取り組み	① 実費でのサービスを検討したが、ポイント制を導入し洗濯サービスを実施した。また、延長サービスについては実施が出来なかった。
------------------	--

健康長寿地域拠点作り

令和4年度は、新たに2拠点を開設。18か月実施の初期支援3拠点。継続支援認知症講座14回、口腔16回。機能測定は新型コロナウイルス感染症の為、中止。代わりに高血圧講座25回を実施。新型コロナウイルス感染症の為、初期支援終了が長引いている拠点がある。

■担当自治会一覧

●初期支援拠点

- ・三軒屋自治会（令和5年5月終了予定）
- ・松原団地自治会（令和5年12月終了予定）
- ・瀬戸寿自治会（令和6年3月終了予定）

計3拠点

●初期支援終了拠点

- ・下泉久門自治会 計1拠点

●健康長寿拠点一覧

月	火	水	木	金
みどり丘	10:00 城庄	9:00 長野	9:30 篠塚地	10:00 光野
下泉門	13:00 吉岡	10:00 七台	10:00 下泉上	10:00 林原
喜地町	14:00 船木原	10:00 西喜地組	10:00 松原地朔	10:00 本郷
	池田	10:00 三軒屋	10:00 高祖	13:00 国領
	瀬戸寿初月	10:00 篠塚	13:00 西野	13:30 北内妙
	北内中	13:30 東田	13:30	道面
	岸の上連合	14:00		
	元給木	14:00		

令和5年3月現在

一般高齢者介護予防教室（元気もりもり教室）

参加者の日常生活上の課題を解決するために、運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、認知機能改善、セルフケア能力・ソーシャルスキルの向上プログラムを複合的に実施し、生活機能の改善を図ることを目標に13回シリーズで教室を開催した。

7月7日～1月19日 毎週木曜日 13:30～15:30

船木公民館にて実施。参加者20名。

8. 職員研修参加状況（ふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
5	25	県総会、施設長研修会	オンライン	施設長1名
7	7	脳卒中後遺症とパーキンソン病の介護	オンライン	介護職員2名
7	7	県「コロナ禍におけるサービス提供」	オンライン	介護職員2名
7	21	食中毒とウイルスから身を守ろう	オンライン	介護職員1名
7	23	介護保健施設で働く栄養士のためのオンライン研修会(初級編)	オンライン	栄養士1名
8	4	県老人福祉施設大会	オンライン	看護職員1名、介護職員2名
8	20	介護保健施設で働く栄養士のためのオンライン研修会(中級編)	オンライン	栄養士1名
8	23	特定給食施設関係者研修	オンライン	栄養士1名
8	30	介護施設での看取りのありか方	オンライン	看護職員1名、介護職員1名
9	11	県看護協会エンドレスライフケア	オンライン	看護職員2名
9	28	四国大会	オンライン	看護職員1名、介護職員1名
10	5	ユニットリーダー研修	オンライン	介護職員1名
10	6~7	ユニットリーダー研修	オンライン	介護職員1名
10	22	コロナ禍でも活かせる転倒防止の理論と実践	オンライン	機能訓練指導員1名
10	22	認知症基礎研修	オンライン	介護職員1名
11	11	市社協スキルアップ研修(施設の防災について)	オンライン	機能訓練指導員1名
11	12	花王手指衛生遵守の向上を目指して	オンライン	看護職員1名、栄養士1名
12	8	認知症ケアの技術	オンライン	介護職員1名
12	9	ノーリフティングケア(持ち上げない介護技術)	オンライン	介護職員2名
1	17~20	ユニットリーダー実地研修	高知県特養棟の広場	介護職員1名
1	24	県チームリーダー研修会	県総合福祉会館	介護職員2名
2	13	県東予共催防災に関する研究・研修会	マリンパーク	生活相談員1名
2	28	県総会、施設長研修会	県総合福祉会館	施設長1名
3	1	腸内環境と認知症の関係	オンライン	看護職員1名
3	6	倫理及び法令遵守、身体拘束、虐待防止	オンライン	介護職員1名、機能訓練指導員補助1名

職員研修参加状況（デイサービスセンターふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
6	20	県「福祉の職場」職員研修会	県総合福祉会館	機能訓練指導員1名
7	21	食中毒とウイルスから身を守ろう	オンライン	看護職員1名
10	22	コロナ禍でも活かせる転倒防止の理論と実践	オンライン	機能訓練指導員1名
11	12	手指衛生遵守の向上を目指して	オンライン	介護職員1名
12	8	認知症ケアの技術	オンライン	介護職員1名
2	13	県東予共催防災に関する研究・研修会	マリンパーク	生活相談員1名
3	6	倫理及び法令遵守、身体拘束、虐待防止	オンライン	介護職員1名

10.特養利用者の概要

(1)利用者の状況

令和5年3月31日現在

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
5年以上～10年未満	1	4	5	19%
3年以上～5年未満	1	4	5	19%
1年以上～3年未満	4	6	10	38%
1年未満	0	6	6	21%
合 計	6	20	26	100%

年齢構成

区分	65歳未満	65～74	75～79	80～84	85～89	90～100	101～	平均
男	0	1	0	3	2	0	0	82.7
女	0	0	1	0	3	12	1	88.6
合計	0	1	1	3	5	12	1	87.4

①平均年齢は約87.4歳となっている。

②最高齢者は、男性88歳、女性101歳で、最も若い利用者は、男性75歳、女性67歳である。

要介護度の状況

[要介護度]

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
男 性	0	0	4	2	1	7	3.57
女 性	0	0	6	6	7	19	4.05
合 計	0	0	10	8	8	26	3.92
前年度実績	0	0	8	12	9	29	4.03

(2)入退所状況

利用者状況

[月別新規入所者]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	6
計	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	6

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	4
女	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	5
計	0	1	0	0	2	0	0	2	1	0	1	2	9

9名の方が退所となり、その内死亡退所7名、入院継続2名となっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

〔利用者26名〕

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	1
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	6
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	7
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	4
	2 介助により車椅子に移乗する。	6
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	2
	2 自力では寝返りもうたない。	0

認知症老人の日常生活自立度判定

〔利用者26名〕

項 目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	1
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	2
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	6

ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	8
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	3
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	4
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	2

(5)利用者医療状況

疾病状況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	便秘症	20	35	脳血管性認知症	7
2	高血圧症	11	36	狭心症	1
3	脳梗塞後遺症	6	37	アルコール性認知症	3
4	老人性認知症	0	38	アルコール性精神病	0
5	糖尿病	6	39	高脂血症	0
6	骨粗鬆症	4	40	股関節変形症	0
7	アルツハイマー型認知症	16	41	統合失調症	0
8	胸椎・腰椎圧迫骨折	1	42	C型肝炎	1
9	大腿骨頸部骨折	0	43	ペースメーカー	2
10	レビー小体型認知症	2	44	不定愁訴	0
11	心不全	2	45	僧帽弁閉鎖不全	0
12	パーキンソン病	2	46	関節リウマチ	1
13	心筋梗塞	0	47	高度難聴	0
14	変形性膝関節症	1	48	両変形性股関節症	0
15	尿路感染症	4	49	前頭側頭葉変性症	0
16	腰痛症	0	50	洞不全症候群	1
17	胃瘻増設	1	51	腰部脊柱管狭窄症	1
18	心経因性膀胱	0	52		
19	肺炎	3	53		
20	慢性腎不全	0	54		
21	変形性脊椎症	0	55		
22	呼吸不全	0	56		
23	脳出血後遺症	2	57		
24	白内障	2	58		
25	うつ病	1	59		
26	心房細動	0	60		
27	前立腺肥大	1	61		
28	症候性てんかん	3	62		
29	頸椎損傷	0	63		
30	硬膜下血腫	0	64		

今年も身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努力している。委員会メンバーは・施設長・生活相談員・看護職員・栄養・グループ職員からの構成になっている。

尚、運営基準で利用者の生命又は身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、行動を制限する行為を行ってはならないと規定されており、身体拘束などを行う場合には、その対応及び時間、利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。また、その際は、利用者本人や家族に対して詳細な説明と十分な理解を得る必要がある。現在身体拘束は実施していない。

(7)ユニットケア実施状況

全体行事

	さくら	ふじ	いちよう	もみじ	合計
1月4日 初詣	0	0	0	0	0
12月25日 森の音楽会	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0

※コロナ禍のため、全体行事は開催されなかった・外出は控え、各ユニット個別でイベントを行った。

ユニット行事実施状況

実施月	さくら	ふじ	いちよう	もみじ
4月	お花見	お花見 (敷地内)		お花見
5月	梅シロップ作り	ちらし寿司作り	ホットケーキ作り	
6月	梅サイダーと豪華フルーツ作り	東京ケーキ作り	かき氷作り	
7月	七夕祭り	七夕祭り	七夕飾り	七夕飾り
8月	スイカ叩き			フルーツポンチ作り
9月		にぎり寿司屋さん	芋炊き	芋炊き
10月	林檎煮作り		太鼓見物	太鼓見物
11月				
12月	クリスマス仮装大会		クリスマスケーキ作り	クリスマスツリー飾り
1月	正月の甘酒をたしなむ会			
2月	風船ポンポンで遊ぶ			豆まき
3月			お花見	お花見

個別ケア 実施状況

《さくらユニット》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	44	41	44	34	45	43	29	18	36	33	38	40	445
座位入浴	16	11	17	15	19	18	15	8	16	20	15	17	187
自立補助入浴	18	16	18	16	24	23	18	10	22	18	17	17	217
清拭			1	19	19		16	34	7	1			97
シャワー浴			1		2	2	1		2				8
合計	78	68	81	84	109	86	79	70	83	72	70	74	954

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出、買い物、外食								0				0	0
美容、理容	9	7	7	6	10	10	10	3	6	9	9	7	93
季節行事・レクレーション	9	10	10	10	9				8	8	8		72
お誕生会	3				1			1	1		1	2	9
合計	21	17	17	16	20	10	10	4	15	17	18	9	174

《ふじユニット》

(入浴実施状況：2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	19	24	24	22	18	26	19	6	20	35	40	45	298
座位入浴	55	52	49	55	50	36	38	31	37	25	29	20	477
自立補助入浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	3	11
清拭					2		18	36	9				65
シャワー浴													0
合計	74	76	73	77	70	62	75	73	66	68	69	68	851

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出、買い物、外食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
美容、理容	3	4	7	3	2	8	8	3	0	6	6	4	54
季節行事	9	9	8	2		9							37
お誕生会				1		1		2	1	1			6
合計	12	13	15	6	2	18	8	5	1	7	6	4	97

《いちようユニット》

(入浴実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	17	16	9	15	16	13	10	10	17	30	19	19	191
座位入浴	27	25	17	12	27	41	22	11	22	10	10	19	243
自立補助入浴	43	42	49	24	37	27	32	19	39	28	29	30	399
清拭	1	1		15	1	4	18	41	12	8	3		104
シャワー浴													
合計	88	84	75	66	81	85	82	81	90	76	61	68	937

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
美容・理容など	3	9	3	4	8	7	5	5	9	6	7	3	69
外出・外食・買い物		2									1		3
季節行事		10	10						10				30
お誕生会		1		1	3	2		1				1	9
合計	3	22	13	5	11	9	5	6	19	6	8	4	111

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	リスク 未定	合 計
4月	28	11	12	5	0	28
5月	29	9	13	6	0	28
6月	29	10	13	6	0	29
7月	29	11	14	4	0	29
8月	29	8	16	5	0	29
9月	29	10	16	3	0	29
10月	29	10	16	3	0	29
11月	29	7	17	4	0	28
12月	28	8	16	4	0	28
1月	27	6	18	3	0	27
2月	29	5	17	5	0	27
3月	27	7	16	4	0	27
合 計	342	102	184	52	0	
月平均	28.5	8.5	15.3	4.3	0.0	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施している。低栄養改善への早期アプローチにて、健康増進に繋げている。

食事の状況

	主 食					副 食				
	普通	握食	粥食	ミキサー	経管	普通	刻食	ミキサー	ソフト	経管
居 室	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
食 堂	12	0	10	2	0	17	0	1	6	0
合 計	12	0	12	2	0	17	0	1	8	0

行事食の献立状況

月 日	行 事 名	献 立
4/3	春の行事食	わらびの炊き込みご飯・かきたま汁・すずきの西京焼き・筍の土佐煮・フルーツヨーグルト和え
5/5	こどもの日	オムライス(トマトソース)・エビフライ(レモンタルタルソース)・コンソメスープ・手作りメロンゼリー
6/19	父の日	赤飯・黄金かれいの煮付け・なすの揚げびたし・茶碗蒸し・フルーツ
7/7	七夕	稲荷寿司・七夕ラーメン・ごぼうと豚肉の味噌煮・黄桃缶のピーチジュレ
8/13	お盆	冷やし中華・チンゲン菜と絹揚げの炒め煮・黄桃缶ピーチジュレ
8/30	夏の行事食	ちらし寿司・天ぷら盛り合わせ・茶碗蒸し・トマトサラダ・フルーチェ
9/30	いもたき会	いもたき・鮭おにぎり・小松菜と桜えびの和え物・秋のフルーツ盛り合わせ
10/19	秋の行事食	白飯・エビチリ・ギョーザ・チョレギサラダ・卵スープ・杏仁豆腐
12/25	クリスマス	オムライス(野菜ソース)・鶏の唐揚げ・ブロッコリーの洋風お浸し・コンソメスープ
12/31	大晦日(夕食)	年越しそば(えび天)・大根と豚肉の利休煮・みかん
1/1	お正月(祝い膳)	赤飯・有頭海老の旨煮・合鴨スモーク・ほたて煮・数の子・寿高野の煮物・伊達巻玉子・絵馬蒲鉾・花三色・カニカマ・六角里芋煮・昆布巻き・黒豆煮・栗きんとん
1/31	冬の行事食	鯛めし・天ぷら盛り合わせ・白菜の和え物・豚汁・いちご
2/28	賀寿のお祝い	ちらし寿司・鮭の塩焼き・大根の煮物・すまし汁・杏仁フルーツ
3/18	初春の行事食	枝豆ごはん・ミックスフライ・ポテトサラダ・春キャベツのスープ・デザート

短期入所生活介護の利用状況

R5.3.31現在

		合計	R04_04	R04_05	R04_06	R04_07	R04_08	R04_09	R04_10	R04_11	R04_12	R05_01	R05_02	R05_03						
利用状況	利用者数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31						
	1人1泊	13.1	14.4	14.6	14.2	13.3	13.7	12.2	13.4	6.7	12.7	14.4	15.1	13.1						
	2人1泊	2.3	3	2.8	2.8	2.2	2.3	2.1	2.2	0.8	2.1	2.6	2.5	1.9						
	3人以上1泊	10.9	11.4	11.8	11.4	11.1	11.4	10	11.2	5.9	10.6	11.8	12.6	11.1						
	合計	4794	431	453	426	412	424	365	416	201	393	445	423	405						
	1人1泊	828	90	88	84	67	70	64	69	23	64	80	69	60						
	2人1泊	3966	341	365	342	345	354	301	347	178	329	365	354	345						
	3人以上1泊																			
	1人1泊	2.8	3.1	3.1	3	3	2.9	2.9	2.6	2.8	2.6	2.4	2.5	2.5						
	2人1泊	2.9	3.2	3.2	3	3	3	3	2.9	2.3	2.7	2.8	2.8	2.8						
	3人以上1泊	2.8	3.1	3.1	3	3	2.9	2.8	2.6	2.8	2.5	2.3	2.5	2.4						
	合計	15	5	5	5															
	1人1泊	15	5	5	5															
	2人1泊	65				5	8	8	7	3	9	10	7	8						
3人以上1泊	65				5	8	8	7	3	9	10	7	8							
合計	606	29	32	41	41	41	36	53	28	56	85	78	86							
1人1泊	150	6	3	9	12	14	13	17	8	17	17	14	20							
2人1泊	456	23	29	32	29	27	23	36	20	39	68	64	66							
施設別	施設A	1455	39	120	128	2	112	122	135	114	2	152	16	58	14	124	144	114	132	5
	施設B	158	1	32	33	1	30	18	7	9	8		3	6	6	6	6	6	6	
	施設C	1297	38	88	95	1	82	104	128	105	2	144	16	58	14	121	138	108	126	5
性別	男	1267	51	97	105	1	111	86	105	96	106	42	125	144	18	153	20	97	12	
	女	238	36	3	2		3	29	22	25	15	34	47	18	40	18	18	18		
	合計	1029	15	94	103	1	111	83	76	74	81	27	91	97	113	2	79	12		
年齢別	70歳未満	925	7	117	122	98	82	75	3	66	69	64	67	48	58	4	59			
	70歳以上	165	40	41	38	24	8	8	6											
	合計	760	7	77	81	60	58	67	3	58	63	64	67	48	58	4	59			
要介護度	要介護1	461	26	63	61	59	76	60	10	45	10	29	6	6	12	14	13	23		
	要介護2	117	26	9	9	7	10	12	10	12	10	13	6		10	10	9	16		
	要介護3以上	344		54	52	52	66	48	33	16	6	2	4	4	4	4	7			
居住区分別	市内	53		3				3					18	24	5					
	市外	37		1									18	18						
	合計	16		2				3					6	5						
多床室	男	4741	431	450	426	412	421	365	416	201	393	427	399	400						
	女	791	90	87	84	67	70	64	69	23	64	62	51	60						
	合計	3950	341	363	342	345	351	301	347	178	329	365	348	340						
構成比(%)	非該当																			
	要介護1	0.3	1.2	1.1	1.2															
	要介護2	1.4				1.2	1.9	2.2	1.7	1.5	2.3	2.2	1.7	2						
	要介護3	12.6	6.7	7.1	9.6	10	9.7	9.9	12.7	13.9	14.2	19.1	18.4	21.2						
	要介護4	30.4	27.8	28.3	26.3	29.6	31.8	31.2	36.5	28.9	31.6	32.4	27	32.6						
	要介護5	26.4	22.5	23.2	26.1	20.9	24.8	26.3	25.5	20.9	31.8	32.4	36.2	24						
	要介護6	19.3	27.1	26.9	23	19.9	17.7	18.1	16.6	31.8	17	10.8	13.7	14.6						
	要介護7	9.6	14.6	13.5	13.8	18.4	14.2	12.3	7	3	3.1	3.1	3.1	5.7						
	その他																			
	性別																			
	男	17.3	20.9	19.4	19.7	16.3	16.5	17.5	16.6	11.4	16.3	18	16.3	14.8						
女	82.7	79.1	80.6	80.3	83.7	83.5	82.5	83.4	88.6	83.7	82	83.7	85.2							

【令和4年度 利用者年齢層×介護度】

利用者／介護度	事業対象者		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
	計	男女									
65～69歳	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	男女						1				1
70～74歳	計	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
	男女						1				2
75～79歳	計	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	男女					1					1
80～84歳	計	0	1	3	4	4	3	1	0	0	16
	男女				2	2	2	1			7
85～89歳	計	0	2	4	6	8	4	0	0	0	24
	男女				1		1				2
90歳以上	計	2	1	1	12	9	4	3	1	1	33
	男女										2
合計	計	3	4	9	29	25	11	4	1	1	86
	男女										0
合計	計		0	0	9	5	3	1	0	0	18
	男女	3	4	9	20	20	8	3	1	1	68
											0

令和5年3月31日現在

※平均年齢：87.4歳で（男性83.7歳 女性88.5歳）
 最高齢者は、男性で95歳、女性で100歳
 ■平均介護度：1.9（要支援を除く）

【令和4年度デイサービスセンター利用状況(月別)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年 1月	2月	3月	合計
前月末 サービス登録人員	83	85	91	90	91	93	96	97	97	81	83	85	1,072
新規 サービス登録人員	4	6	2	1	2	5	4		1	3	2	4	34
月末 サービス登録人員	85	91	92	91	93	96	97	97	98	84	85	87	1,096
月間 運営日数	26	26	26	22	24	26	26	26	22	24	24	27	299
月間 利用実人員	80	80	83	82	81	81	79	80	81	83	81	83	974
月間 利用延人員	762	747	786	637	679	730	775	758	636	685	676	774	8,645
一日平均利用人数	29.3	28.7	30.2	29.0	28.3	28.1	29.8	29.2	28.9	28.5	28.2	28.7	28.9
事業対象者	20	21	19	13	18	14	13	11	13	12	12	13	179
要支援1	22	20	26	20	10	13	19	19	11	18	19	20	217
要支援2	72	72	72	73	76	99	69	56	53	56	67	66	831
要介護1	200	222	232	209	221	218	255	265	232	264	265	295	2,878
要介護2	306	299	332	236	267	275	293	297	216	240	230	226	3,217
要介護3	116	97	88	75	75	85	81	71	78	58	67	113	1,004
要介護4	11	8	10	5	6	19	37	32	26	29	9	34	226
要介護5	15	8	7	6	6	7	8	7	7	8	7	7	93
入浴情報(延べ)	668	652	697	553	598	635	664	655	554	583	582	659	7,500
一般浴	530	526	570	451	489	505	532	561	456	481	476	518	6,095
リフト浴	138	126	127	102	109	130	132	94	98	102	106	141	1,405
食事情報(延べ)	758	743	782	634	679	730	774	755	631	677	670	768	8,601
機能訓練/機能向上	529	530	536	339	476	558	616	462	531	550	561	573	6,261

※一日平均利用人数:28.9人

11. 委員会活動計画

重点目標及び課題	成果等
<p>【拘束委員会】 「身体抑制廃止・ふたばの森宣言」に基づき継続して取り組んだ。</p> <p>【研修委員会】 事業計画に準じた研修を行いサービスの向上に努めた。</p> <p>【安全対策委員会】 転倒・転落による「重傷事故ゼロ」に取り組んだ。</p> <p>【在宅委員会】 グループ内の居宅、デイ、ショートで情報共有を行いながら稼働率向上に取り組んだ。</p> <p>【給食委員会】 食の楽しみをお届けし、事故防止にも努めた。</p>	<p>① 身体拘束等の適正化のため定期的に研修を実施した。定期的な検討会を3ヶ月に一度行い、身体拘束ゼロの達成が出来た。</p> <p>① 法令や運営基準に基づく必須研修を中心に、全職員対象の研修を計画、コロナウイルス感染対策等のため開催できない研修もあった。</p> <p>② 必要に応じ職員の要望を取り入れた内部研修やその時の情勢に合った内部研修を行った。</p> <p>① 新居浜市役所への事故報告・・・26件 東予地方局への事故報告・・・2件 (内訳) 転倒による裂傷・・・1件 転落による骨折・・・3件 誤薬・・・2件 介助中の怪我・・・1件 落葉・・・9件 喉詰り・・・1件 感染症による利用者の死亡・・・1件 感染症・・・5件 内出血・・・1件 裂傷・・・1件 転落・・・1件 重大事故を未然に防ぐことが出来なかった。</p> <p>① ショートステイ、デイサービスの問題点や稼働状況などを、担当相談員とふたば荘居宅介護支援事業所職員と共に、利用者や家族、他の居宅介護支援事業所に選ばれる事業所として、必要なことを話し合う場を設け、情報を共有し円滑な運営が出来た。</p> <p>① 食事を楽しんでもらえるよう、季節感のある食材や懐かしい料理を行事食で取り入れた。</p> <p>② 食中毒を防ぐため二時間前喫食、手指食毒、調理者の体調管理を徹底した。</p>

<p>【褥瘡委員会】 多職種で連携して予防と早期対応に努めた。</p>	<p>① 褥創者は2名だった。 1件目は、入所時他施設より持ち込みで右第1. 2趾に褥瘡あり、指示通りの処置を継続し完治した。 2件目はに仙骨部に褥瘡発生。指示通りに処置を実施し治癒した。</p> <p>② 褥瘡発生には至らなかったが、皮膚トラブルの発生者が数名あった。その都度、保湿や保清を実施し早期対応に努めた。</p>
<p>【口腔ケア委員会】 専門家の指示の下、適正なケアに取り組んだ。</p>	<p>① 月2回以上の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、治療が必要な利用者に関して、本人や家族の意向を確認しつつ対処が行えた。また、介護職員から発信される利用者の口腔内の問題点を歯科医師、歯科衛生士へ連絡し、治療や問題点の解決に繋げることが出来た。</p>
<p>【看取り委員会】 利用者や家族の想いに寄り添いながら最期の時まで穏やかに過ごせるように努めた。</p>	<p>① 4名の方の看取り介護を実施した。コロナ禍であったが、感染対策を行いながらも面会は自由に行って頂いた。最期の時まで家族で穏やかに過ごせる環境を提供できたと思う。また、ご家族との連絡相談を密にし出来る限り本人、家族が望むサービスの提供を行った。</p> <p>② 食事摂取が難しい状態であっても、本人に食べたい意思があり、家族が同意した場合は、嗜好品を無理しない程度に形状を工夫して、看護職員、家族立ち合いの下、提供を行った。</p>
<p>【感染対策委員会】 年中を通しての感染症対の予防対応に努めた。</p>	<p>① R4、11月に施設がコロナクラスターとなり、地域交流室をレッドゾーンとし対応した。後日、反省会を実施し見直しを行った。</p> <p>② コロナ禍ではあるが、徐々に対応が緩和されつつあり、適宜委員会を実施し、対策の変更を行った。</p>
<p>【入浴委員会】 定期的な開催をもち環境整備に努め、利用者の全身の状態の情報を共有し細かな</p>	<p>① 入浴の度に手足の爪が伸びていないか確認を行った。</p> <p>② 職員間で利用者の怪我等の状態を把握し、傷が増えていないかを確認した。</p>

<p>ケアが出来るよう努めた。</p> <p>【排泄委員会】 排泄、排尿の管理は基よりコストを考えた活動を行った。</p>	<p>③ 環境整備に努め常に換気を行った。</p> <p>① 排泄介助時には皮膚観察を行い、褥瘡や皮膚の爛れのある方は医務との連携を取り、早期対応処置を行った。</p> <p>② ケア用品の見直しを行い不要な使用を減らすことでコストの削減に繋げることが出来た。</p> <p>③ オムツの発注方法を変更した。</p>
<p>【接遇委員会】 委員会を通じて各職員に目標を伝達し取り組んだ。</p>	<p>① 丁寧な言葉遣いと共に、利用者が親しみを感じやすい方言を交えるなど、職員が色々と工夫して声掛けを行っていくことも必要であると協議した。</p> <p>② 職員の身だしなみについては、目立った服装の乱れは見られない為、引き続きご利用者や家族の方に不快感を与えないように注意を行った。</p>
<p>【環境委員会】 立地条件より、施設内、施設外も視野に入れ活動を行った。</p>	<p>① 施設敷地内外の掃除を各部署・各ユニットにて週ごとに出勤時間内にて実施し、掃除チェックシートにて管理することになっていたが、掃除をしない、チェック表への記入をしないなど十分に行えないこともあり、その都度、委員会にて周知徹底をし、チェックシートの置き場所を変える等の取組みをしたが、まだまだ不十分なため今後の課題となった。</p> <p>② 定期的に各りビング、各居室などの窓を拭くよう呼びかけた。</p>
<p>【防災防犯委員会】 水害、火災を中心に普段から訓練を行い対応力が向上するよう取り組んだ。</p>	<p>① 定期的な防災訓練を行うと共に、非常食の管理を一元化し、賞味期限が切れた物から更新した。</p>
<p>【広報委員会】 紙面やHPを使い情報発信に努めた。</p>	<p>① ブログ活用し情報発信する予定であったが、有効活用することができなかった。</p> <p>② コロナ禍でイベント事等の制限がある中で、2ヶ月に1回の広報誌発行により各部署・各ユニットが工夫をし、入居者・ご利用者様の生き生きとした姿を紹介することで、家族や地域の方々に施設のアピールをすることが出来た。</p>

【認知委員会】

専門家によるアドバイスを
受けながらその人らしい生
活が維持出来るように努め
た。

- ① 認知症の方の現状と対応方法を毎月、他職種で検
討。言葉に出せない変化にも早期に気づき、職員個
々が対応できるように話し合う事が出来た。
改善が難しい時や、BPSDのある認知症の方への
対応については、その都度、相談員や医務・心療内
科医と連携し、診察・服薬調整等を行い、個々の利
用者の状態に合わせた対応を行った。

グループホームふたばの森

目標及び課題	具体的取り組み
(1) 地域福祉サービスの創造と展開	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍において地域との連携維持のため、運営推進会議の開催は書面会議での実施により運営推進会議の機能維持に努めました。 ② 運営推進会議の意見交換の中から事業所及び地域における課題等を発掘・共有し、社会資源としての役割の発揮に努めました。 ② 日常的に地域美化活動を実践し地域社会への貢献を行いました ③ 地域における在宅認知症高齢者のニーズに対応するため、認知症短期入居サービスの開始準備を行いました。
(2) サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 愛媛県認知症介護実践者研修 1名 認知症介護実践リーダー研修 1名 管理者研修 1名 の受講を行い、認知症介護技術の向上及び人材の育成を行いました。 ② ICT機器及び記録ソフトの運用から、介護記録の効率化・内容の充実及び利用者ニーズ分析への活用をはかりサービスの質の向上に努めました。 ③ 各種業務マニュアル等の見直しにより、事業所内のサービスの標準化を行いサービスの質の維持を行いました。
(3) 持続可能な経営基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者退居後、新規入居者の受入に苦心し、年間稼働率95.7%と事業計画目標98%より、大幅に下回りました。 ② 人件費の見直し 勤務希望・特性に応じた職員の配置を行いました。
(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護サービスの公表 項目事項の再整備を行いました。 ② 全職員が地域密着型サービス自己評価項目ごとの理解を深め、実践を行いました。 ③ 外部講師による法人内研修(年間プログラム)を基幹職員に受講させ人間力、現場対応能力の向上、後輩職員への助言・指導のスキルを修得しました。

GH利用者の概要

(1)利用者の状況

令和5年3月31日

在所期間の状況

[利用者18名]

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0
10年以上～15年未満	1	1	2	11.1
7年以上～10年未満	0	0	0	0.0
5年以上～7年未満	0	2	2	11.1
3年以上～5年未満	1	3	4	22.2
1年以上～3年未満	0	4	4	22.2
1年未満	0	6	6	33.3
合 計	2	16	18	100.0

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	0	0	0	0	1	1	0	2	90.0
女	0	0	0	0	9	2	3	2	16	87.4
合計	0	0	0	0	9	3	4	2	18	87.8

①最高齢者は、男性90歳、女性101歳で、最も若い利用者は、男性85歳、女性80歳である。

要介護度の状況

[要介護度]

介護度	年齢区分	自 立	支 援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	80～84歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	85歳以上	0	0	0	1	0	0	1	2	3.50
女性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	80～84歳	0	0	0	5	2	2	0	9	2.67
	85歳以上	0	0	0	2	3	2	0	7	3.00
	男 性	0	0	0	1	0	0	1	2	3.50
	女 性	0	0	0	7	5	4	0	16	2.81
	合 計	0	0	0	8	5	4	1	18	2.89
	前年度実績	0	0	0	7	6	2	2	17	2.94

(2) 入退居状況

利用者状況

〔月別新規入居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	6
計	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	6

〔入居前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別介護老人 ホーム		
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	4	0	1	1	0	0	0	0	6
計	4	0	1	1	0	0	0	0	6

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	2	2	2	0	0	6
計	2	2	2	0	0	6

退居者状況

〔退居理由〕

	家庭復帰	入院継続	施設入居	死亡(病院)	死亡(GH)	合計
男	0	0	1	0	0	1
女	0	0	3	0	1	4
計	0	0	4	0	1	5

〔月別退居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
女	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4
計	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	5

(3) 日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活動作の状況

[利用者18名]

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	0	6	6	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	1	1
	手を貸してもらするなど一部介助を要する	1	10	11		体を洗ってもらするなど一部介助を要する	1	11	12
	全面的に介護を要する	1	0	1		全面的に介護を要する	1	4	5
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	0	11	11	着替	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	2	2
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	2	5	7		袖を通してもらうなど一部介助を要する	1	14	15
	全面的に介護を要する	0	0	0		全面的に介護を要する	1	0	1
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	2	2	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	5	5
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	0	11	11		タオルや顔をふいてもらうなど一部介助を要する	1	10	11
	全面的に介護を要する	2	3	5		全面的に介護を要する	1	1	2

日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者18名]

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	2
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	7
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	4
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	3
	2 介助により車椅子に移乗する。	2
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	0
	2 自力では寝返りもうたない。	0

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者18名]

項目	認知症の程度	
正常	認知症の症状無し	0
ランクⅠ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	0
ランクⅡ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	2
ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	5
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	4
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	5
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	2

すべての利用者にランクⅢ以上の認知症状が観察される。

受診状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
受診人数	5	7	8	8	7	8	7	8	9	7	10	7	91	7.6	0.2
受診回数	8	10	14	9	11	13	17	11	11	15	15	15	149	12.4	0.4

入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。

入院状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	0	1	1	1	0	1	21	0	0	0	0	0	25	2.1	入院人数
延日数	0	4	14	9	0	5	4	0	0	0	0	0	36	3.0	0.1

行 事

実施月	1階ユニット (どんぐり)	2階ユニット (くるみ)
4月	お花見 (敷地内) ※敷地内	お花見 (春を感じ気分転換しよう) ※敷地内
5月	おやつづくり	母の日を祝おう!!
6月	おやつづくり	あじさいを見に行こう (近隣外出)
7月	暑さを凌ぐために団扇を作ろう	そうめん流しを楽しもう
8月	おやつづくり	夏祭り気分で花火を楽しもう
9月	特別食	芋炊き (郷土料理) を味わおう
10月	おやつづくり	秋鮭のホイル焼きをし、 秋の味覚を楽しもう
11月	秋の風物詩、伝統行事の芋炊きで宴	うどんすきと和のスイーツで 旬を味わおう
12月	お餅つきを楽しむ	お餅つきを楽しむ
1月	未実施	未実施
2月	市内ドライブでおみやげを 買ってかえろう	ハッピーバレンタイン!
3月	新居浜市内観光ドライブ	梅見見物 (ドライブ)

コロナ禍のため、外出行事は控え、事業所内で行事を行っている。